

在日中国人高齢者の介護環境に関する研究
—支援者と利用者を対象にしたインタビューの質的分析を基に—

社会福祉学専攻 郭 起航

要 旨

【目的】

本研究は、日本に居住する中国人高齢者の介護環境の現状と課題を明らかにし、多文化共生社会の実現に向けた支援策を提案することを目的とする。

【方法】

宮城県内の中国語対応可能な入所型介護施設 5 カ所において、施設長 5 名、スタッフ 5 名、利用者 3 名（入所者 1 名、デイサービス利用者 2 名）を対象にインタビュー調査を実施。質的データの逐語録をもとに、言語的障壁、文化的適応、支援体制などのテーマに基づきコード化・カテゴリー化を行い、概念化を通じて主要な課題を導出した。

【結果】

在日中国人高齢者の介護環境において、以下の 3 点が主要な課題として浮かび上がった。

言語的障壁：

日本語能力の不足により、介護職員との円滑なコミュニケーションが困難であり、適切なケア提供に支障をきたしている。

文化的相違：

食習慣や宗教的価値観の違いが介護施設での生活への適応を難しくしており、精神的ストレスの要因となっている。

支援体制の不備：

多言語対応スタッフや文化理解教育が不足しており、行政や地域との連携も十分とは言えない。

【考察】

介護サービスの多文化対応を進めるためには、①通訳ツールや多言語資料の導入、②文化的配慮を反映したサービス設計、③地域コミュニティと行政の連携強化が必要である。特に、異文化への理解と相互尊重を基盤とした「共生社会」の実現には、制度的な整備と現場の対応力強化が不可欠である。

【結論】

本研究は、在日中国人高齢者の介護環境改善に向けた具体的な提言を行い、多文化共生社会の構築に貢献する。外国人高齢者の介護における先行研究が少ない中、本研究の成果は今後の介護政策や支援体制の基盤となることが期待される。